

産業と道路

道路改良會理事 陸軍中將 佐藤鋼次郎

道路は身體の血管「產業と道路」と云ふ題でも話を致します。或は中には是は間違ではないかと御考の方があるかも知れぬ、私の身分としては國防と道路一所が產業一少しきにないも話を致します。尤も他の諸君の様に、私は具體的に數字を擧げても話することは避けるのであります。唯だ大處高處より觀て、私の柄に相當して軍人流に、どうだ、もう少し御奮發になつて道路を改良になつたらどうですか、と云ふ様な邊で御免を蒙りたいと思ひます。元來道路と云ふものは人間の身體で言ひますと、血管の様なものであります、なるほど、京都には道路が完全に出來て居る様でありますけれども、今日も町を通つて見ると隨分狭い所がありま

す。血管でも動脈瘤とか血管の硬化とか言ひまして、血行の不充分な部分があると、夫れが心臓病や脳溢血の原因になると言ひますが、廣い道路でも京都の町の中の或部分の如く一部分狭い所がありますと、全體が役を爲さぬ。血管でもさうです。一部分悪い所があるとそれは立派な健全な血管とは言へない。

日本道路の劣悪 私は現役の中には砲兵でありまして、殊に重砲兵と言つて重い大砲を引摺つて歩く職務でありまして、聯隊長の時分に隨分に道路には難儀をしましたのであります。日本の道路程理窟に合はぬ道路はありません。舊藩時代の考がまだ抜けぬものと見えまして、或る縣に於きましては縣知事が非常に御熱心で其の附近の府縣の道路に比すれば大變良く出來て居るが、其の次の縣は非常に不熱心な知事さんばかりで發達して居らない。さうして繼ぎ目がいつも悪い。縣と縣との境が……。それから道路が良くても橋が悪い、外見は立派な様に見へましても重い大砲を通すと危ぶない。斯う云ふ様な具合で日本の道路と云ふものは我々重い大砲を引張つて

歩くものには餘程な迷惑を掛けました。道路と云ふ觀念から云ふと殆ど道路を爲して居らぬ。道路改良會が努力しやうとするのは、國家と云ふ上から見て此邊の事を改良しやうとするのであります。

サミエル・ヒルと云ふ人は、米國の鐵道王と言はれて居る有名な道路改良家であります。それが東京に來て講話を致しました。其改良の寫真が後刻御覽に入れる寫眞であります。先づ米國などの道路を御覽下さい。而して之を東京の道路と比較したらどうぞしやう。私は東京の道路は道路と思ひません。サミエル・ヒル氏が申しましたに、澁澤さんが或る時に何か怪我をして指に繩帶を卷いて居られたのを見て彼は之はあなた道路が悪いので自動車でも引繩返つて怪我をしたのだらうと……斯様に我々は彼から、刺戟を受けて道路を改良しなければならぬと云ふので、先づ第一に東京の道路を直すと云ふ事に努力しました。それが爲にはプロバ・ガンダをやる。當局者へも忠告する。夫れが一片附さしましたから、今度は京都を目指して來たと云

ふのてはありませぬが、京都も餘り良い方ぢやないから、我々が來て講演でもした
なら幾分か效能があらうと考へたのであります。多少でも效能がありましたら、啻
に我々の光榮とする所なるのみならず、又京都の爲め祝すべきのみならず、日本帝
國の爲め非常に祝すべき事だと思ひます。

我國道路不振の原因　元來言ひますと、道路と云ふものは運搬方に依て發達したも
ので、其の必要に應じて發達して居る。日本が地形上……無論初めは先づ人間が物
を擔つて行く、次は動物を使つた即ち牛や馬に着けて行く、斯う云ふものでありま
したから初めには餘り幅の廣い道路はなかつた。次に段々起つて來ましたものが車
輛、……それが發達致しまして、荷馬車、……其の中に日本では鐵道が出來てしま
つた。それで荷馬車は歐米程にそれ程發達して居らぬが、他の國は此荷車がモット多く
發達して居て、荷馬車でも一頭曳ではありませぬ、二頭とか或は四頭、六頭、恰度
砲兵の大砲を引張ると同じ様に、百姓車が澤山の馬で輓くことになつて居ます。其

の運搬方法の時代が日本には無い、直ぐ飛んで鐵道へ行つてしまつた。鐵道が出来る
と道路は要らぬと云ふので修理も何もしない。近頃はさうでもないか知れませぬが、
東海道などは私共が大砲を引張つて歩く時分は非常に困つた。鐵道が出来たら道路
は一つも修理しない。斯う云ふ風であつた所へ、今度は自動車が現はれて來た。之
は弱つた。此の爲に自動車……隨分東京近所、小田原近所でもさうです。あの邊で
自動車に乗ると命懸けてす。東京にも尤も玄海灘と云ふ所があるさうだ、私は自動
車などには餘り乗りませぬが、自動車に乗つて居りましても、玄海灘なんと云ふと、
ドン／＼と突き當る、さう云ふ所があるさうです。京都あたりでも郊外へでも出ま
したら相應に浪が荒いだらうと思ひます。

さう云ふ譯で、身體を搖られて苦しい位は宣しう御座いますけれども、それが皆
産業に影響を及ぼす。私は非常に不利益な事だと思ひます。日本に於ける道路の發
達は自然に任して置いたもので、人爲的に總て計劃を立つて着手したのではありま

せぬから色々不都合な事が起つたのであります。他の國は先づ第一に道路を造る、市街の經營でも先づ第一道路を造るのであります。私が明治二十五年頃であります。第一回に歐羅巴に行つたとき、佛蘭西領のサイゴンに寄港しましたが、其時分サイゴンはまだ開いたばかりで、家はまだ出来て居らぬ。然るに非常に廣い、十五間も二十間もあるやうな道路がズット出来て、そこに所々に小さい公園が出来て居る。家は僅かでありますけれども、道路がチャーンと出来て、其の道路も唯の道路ではない、チャーンと本道の兩側に歩道もあつて、敷石の所もありますし、コンクリート構造もありました。私共其の時に申しました、成る程斯う云ふ風にやつて行かなければならぬ。……日本の東京などは自然の發達に任せてあつたのだから、あの通りになつて、一本も真直ぐな道路はないではないかと。それから歐羅巴に行きました、ダンチッヒを見て……御承知の通りダンチッヒは昔はナポレオンが占領して居つた地方であります。彼地へ行つて見ると、ナポレオンが占領して居つた時に出

來た幅五十間もある様な道路、ナボレオン道路、それがズット五里も十里も一直線
兩側に並木がある、矢張り敷石道路、敵地を占領してすら、先にさう云ふ風
に道路を拵へて掛る。尤もナボレオンの氣象でやつたのですから、人を驚かす様な
非常な道路を拵へたのもありませう。此中にも青島へも出でになつた方が御座
いませうが、青島へ行つても彼の通り、道路と下水、水道と云ふものを市街を造る
前にチヤント計劃してある、それはどうしてもさう云ふ順序にしなければならない
であらうと思ひます。どうしても先づ道路から造らなければならぬのであります。
人間などはどうして出来るか、我々は専門外でありますから分りませぬが、鷄が孵
る時には一番先に血管が出来て居る。そう云ふ具合で、人間でも血管が先づ出来は
せぬか、さう云ふもので、どうしても道路を先に造る、それから市街でも、そ
れから總ての部落でも出来ると云ふのが順序であつたのが、日本は天然自然に放つ
といいたから妙な風になつてしまつた。京都市などは道路改良を行ふと云つたら大

事だ。大きい石造の家屋などを移轉させる事は大事でありましやう。六かしいとは云ひますが、是から京都市なども東京驛の近所の海上ビルディングなどの様なものが出来るかも知れませぬ、そうするとともつと六かしくなります。恰度、日本の鐵道が京濱間だけの狭軌鐵道が出来たのが、あれを捨てるのが惜しきに皆狭軌鐵道にした。鐵道を廣軌に改良せよと云ふ事が問題になりますけれどもそれが出来ない。さう云ふ様なものでありますから、大豪傑が此の京都の府政なり市政なりを主宰すると云ふ時が來たならば或は其の石造の家屋も何もない、ナポレオンが恰度ダンチッヒ邊りの道路を造つた様に遣り附けたかも知れません。そう行つた方が得策かも知れないと。……流石に西郷隆盛の息子さんだけある、京都の市へ來て何時でも感心しますのは、電車通り、あれは西郷市長の時に出來たと云ふ、あゝ云ふ具合て、其時分は隨分亂暴な事を遺ると云ふお考の方もあつたか知れないが今では仕合せ……おう云ふ様な具合で今日でも思ひ切りが大切かも知れない。

人口問題と道路　さて、私は今日特に申上げたいと思ひますのは、大體に於きまして京都の問題ばかりではない、日本に於ける道路問題。……是は非常に日本の今後に於ける國運の……國命と申しますか、國運の發達に大關係を有つ事であります。之を一寸詳しく述べ上りたい。此の日本の國はどうして生きて行くか、日本國民は毎年七十萬から人口が殖えて行く、之れをどうかしないと食つて行くことが出來ぬ近頃は新マルサス主義とか何とか云ふ様な事を主張するものがあります。之は私は不賛成であります。佛蘭西の様な人口を増さない様にすると云ふ國は下り坂です。ドン／＼澤山子が殖える方が宜い。所謂此の日本の建國の精神たる、皇化を海外に普及して、益々日本の文化を海外に宣傳すると云ふ位の氣象を以て、我々は發展するがよいと思ふ。何ぞ今日に於て人口を減少すると云ふ様な姑息な謀をする必要がありませう。ドン／＼子供を作るが宜からう、私一人平均六七人は當り前だと云ふ事を希望します。そんなに人口が殖へたらどうするか、食つて行けないぢやないかと

云ふ人もありましやうが、そこで私は何時でも大陸主義を主張するのであります。

今度私は「日米若し戦はゞ」と云ふ本を書きましたが、日米戦争を煽動するなどと云ふ疑を掛けられて、内務省やら外務省などでは疑の目を以て御覽になつた。が私はそんな考は少しもない。唯大陸主義を主張するのです。加州問題の如きは日本の名譽の問題であるから、彼等が我々の顔に泥を塗りさへしなければ、我慢して居つても、日本の存立には關係しない。乍併彼の我々の對支政策を、色々と米国人が干渉致します。又日本の政治家はどうかすると云ふと米國が怖くつて、皆唯々諾々、米國の鼻息を窺つて居ると云ふやうな狀態……之れでは日本の存立を危ふします。日本は植木鉢の木の様なもの、それで七十萬宛の人口が殖えて来る。植木鉢の木では之は育ちませぬ。どうしても根を外へ張らなければならぬ。即ち私共の言ふのは、植木鉢でも構はぬから、根を大陸に張つて向ふから滋養分を吸つて来る、さうでなければ植木鉢が割れてしまふか植木が枯れてしまふ、から、どうしても之は對

岸大陸へ發展しなければならぬ。對岸の大陸へ經濟的發展をしなければならない、内地では麥も足りぬ、米も足りないと云つて居ますが、對岸の支那及西伯利に於て、總ての食糧品は十分にあります。其上戰時に於ける軍需品も、對岸の地では何んでも供給し得らるゝのであります。人口問題に就ては私は餘程樂觀の説……日本を船だと思つたら宜い。人は言ふ、日本内地だけの人口の稠密で言ふと、一平方哩に四百人、米國は一平方哩に三十一人だ。だから米國の方は割が好いと云ふのでありますか、之は少し無理です。對岸の地はどうであるかと云ふと、對岸の地は、極東露領の如きは矢張り一平方哩に十人位のものです。さう云ふ所へ行つて經濟的發展をするのです。日本では米も今の有様では、品種を改良するとか、多少、肥料を改良するとか云ふ事に依つたら、モウ少し増しませうけれども、之れは到底足らぬ。どうしても對岸の地から供給を受けるより仕方がない。私は對岸の地から得る道さへ確實であつたならば宜いぢやないかと思ひます。温泉ヶ嶽でも輕井澤でも。唯だ何

も出來はしない。出來ぬけれども金があつて他の地方から買つて來れば、隨分贅澤
が出來る。日本も船と同じ程の密度に詰めても食物さへ他から持つて來ることが出
来れば何んでもない。所謂それだけの經濟力があるとしたら論はない。さうしたら
今の人口の一平方哩に四百と云ふのが八百人にならうが千人にならうが一千人、三
千人にならうが論はない。唯だ問題は對岸に經濟的發展を爲し得るか否であります。
道路と產業　今日の如くに人口が段々殖えて行つては、米を改良しました所が、又
麥を作る事を改良しました所が、知れたものて、速も追つ附ない。礦物ても同様で
ありまして石炭などても今に盡るだろうと云ふ事でありますから、どうしても外か
ら取つて來る工夫をしなくてはならぬ。外から取つて來て、どうするかと云ふと、恰
度日本は心臓の様な働きをして、其の外から取つて來もたのを吸ひ取つてさうして
又吐き出す。恰度悪い血になつたものを新らしくして動脈へ送り出す。之には日本
内地の道路即ち血管が健全で、四通八達、心臓の働をしなければならぬ。さうして支

那、西伯利からドンノヽ吸收して来て、さうして吐き出す。

私共の議論から言ひますと、餘程大きな事を言ふ様でありますか、製鐵問題でもそ
うです。日本では今日でも鐵が年々百五十萬噸位要りませうか、八幡製鐵所の擴張
が完成したとして百萬噸位ヤツト出来る。當時盛に製鐵問題が起つた時には自給自
足と云つても何でも日本でやらなければならぬと云ふ事が起つた。所が之は經濟上
甚だ損な話で、そんな馬鹿な事をしては算盤は採れない。だから其反動で鐵工業者は
今ヒトイ目に遭つて居ます。マア考へて御覽なさい。鐵を一噸造るのには石炭が四噸
要ります。而して鐵鑛物に於ても含畜量の澤山あるのと無いのとありませうが、概し
て言へば、鐵を一噸造るには鐵鑛物が二噸要る。だから皆他から取つて來ると、四噸
と云ふ石炭と、二噸と云ふ鐵鑛物を運搬して出來上つた一噸を他へ搬出しなくては
ならぬから、七噸と云ふものを動かさなければなりませぬから。どうしても他から何
も彼も持つて來て造ると云ふ事は不利益な事は我を専門外の者でも判斷が出来る。

然るに對岸の地方の有様はどうか、例へば鞍山でも。本溪湖の如きても、其の附近で石炭も取れるし、鐵鑛物もある。而して勞力と云ふものは非常に安い。殊に日本の内地の今日の有様は、サボタージと云ふ様な大變結構な事が流行つたり、又ストライキと云ふ様な感心の出來ない事が流行つたり、さうして段々能率が低くなつて賃金が高くなつた。所が何と言つても支那の苦力は安い、さうして運搬力の要らぬ所の本溪湖や何かで造つた鐵と、日本内地へ何も彼も取寄せて作つた鐵では之はどうしても競争の出来るものでない。唯だ國防の上から、あゝ云ふ所で造つたら戦争の時に困るだらうと云ふ御心配がありますが、是はどうしても、サア戦争と云ふ時に支那を離れては戦争は出來ませぬ。海上では歐洲航路も危なし、濠洲航路は無論のこと、亞米利加は將來の敵です。そこで支那を離れてはいけない。支那を離れては何も出來ない。そんなら總てを支那で造るかと云ふとそうする譯にも參らない。例へば鐵を造ると言ひましても銑鐵だけは向ふで造る、それから鋼は日本で造る。殊

に特種鋼を造ると云ふ事が、今日では飛行機にしても自動車にしても特種鋼が必要であります。是等のものを造るには熟練職工を要する、斯様に特種の技術を要する事だけ日本でやる。さうして荒工事を向ふてやると云ふ風にする。日本はどうしても大陸に對する心臓の形を爲す。其心臓たる日本の内地は、無論血管と云ふものは完全でなければならぬ。そこに今の京都市の様な風に動脈病と云ふか動脈の硬化した様な狭い所がある様では敏活の働が出來ぬ。さて其働を阻害するものは道路であります。道路を改良して對岸大陸の西伯利支那からドン／＼輸入して来て、そうしてそれを消化して又吐き出す、そう云ふ作用を敏活にしなければならぬ。殊に日本は私の考へますには、水力と云ふものが無限であります。所謂水力電氣などを起すべき水の動力が到る所に在る。之は統計の數を持ちませぬが、私まだ／＼山地へ行つて見ますと、少し人工を加へたら水力電氣を起し得る所がいくらもあつても、それをまだ使つて居らぬ。のみならず少し人工を加へだならば、恰度水田に灌溉する様な

風に池でも拵へてそこへ水を溜めたら水力電氣を起し得ると云ふ様な處がいくらもある、之を利用したら無窮に日本の水力電氣は出来るだらうと思ふ。唯だ道路がない。道路がないからさう云ふ様な工事を致しますのても、さう云ふ様な機械を持つて行くのでも、まだ行はれないのであらうと思ふ。此の日本の山を利用し、水力電氣になる所を利用したら無盡藏に水力電氣を發する事が出来る。之れを發し、工業に使つてさうして原料と對岸の地から持つて來る、それを加工して吐き出す、所謂日本全國を心臓……東部亞細亞に於ける所の心臓とすると云ふ事に就てはどうしても此の道路を健全なものにしなければならぬ。

道路改良の利益と其の工事費　道路を健全なものに致しますのには、之は一寸數字を申上げると、御承知の通り陸軍の一馬曳の二輪車と一噸半の貨物自動車とを比較をして見ますと、尤も之は自動車に一番不利益な比較を擧げたものでありますと、實際に於きまして自動車の行程は是よりも宜いのであります。例へて申しますと、

噸半の自動車の積載量は一噸半即四百貫、一馬曳二輪車は〇噸、一八八で即ち五十貫、されば積載量は自動車の方が八倍になつて居ります。其の速度は即ち一時間一馬曳二輪車は一里です(四基米突)貨物自動車は五里(二十基米突)位は何んでもありますせんが軍用として隊列を整へて行く所の速度は一里即ち八基米突であります。そこで一日の行程は自動車の方は六十四基米突、即ち十六里、二輪車は二十八基米突、即ち七里自動車の方が二倍四分の二と云ふ能率を出す事が出来る。一日行進します所の行程に其積載量を掛けたもの、それが所謂一日の運搬行程、之になつて來ると自動車が九十六噸基米突であるのに、二輪車になりますと五、二六噸基米突、恰度自動車の方は十八倍になる。それありますから自動車一輛でする仕事は、二輪車は十八輛を以てやつと出來る。ツマリ二輪車十八輛と自動車一輛と同じ運搬行程を持つて居る。さうして之を買ふ費用は、二輪車は馬も買はなければなりませぬし二輪車の方が二割五分高い、それから一日の費用はどうかと云ふと先づ倍です。そこで、

問題でありますか、先程も承つて見ますと、鐵道の停車場から小運搬と申しますが、其の附近の運搬費が京都府だけで年々約三百萬圓掛ると云ふ事であります、だから京都府全體で荷馬車其他の運搬に要する運賃を計算したら非常なものだらうと思ひます。前に挙げました自動車に割の悪い計算でも半分になる、云ひ換へれば自動車を使ふと荷馬車を使ふと値段が半分になる。

承りますと云ふと、京都も道路には非常に御熱心で、先程府廳の方にも伺つて見ましたが、色々御研究になつた所では、完全に道路を直さうと云ふのには五千萬圓懸かると云ふので、之は決もと云ふのでそれは沙汰止みとなりまして、それでも三十萬圓宛十ヶ年計劃で着々道路の改良を爲さつて居ると云ふ事で之は非常な御奮發で結構の事である。乍併其の五千萬圓説を御實行になつたらどうかと思ふ。何故かと云ふと、今の小運搬と云ふのですら三百萬圓と云ふ、其他に要する運賃をスッカリ合せましたら、荷馬車に拂ふ運賃丈でも非常な數だらうと思ふ。先づ今の三百萬

圓近い所の小運搬の費用だけを自動車を以て致しますとしましても、其半分即ち百五十萬圓で済んで、茲に半分の百五十萬圓と云ふ金が出來る。年々百五十萬圓の金を剩し得る見込があつたら奮發してどうです。五千萬圓位借金してやつても私は得ぢやないか、況んや停車場の近所の小運搬ばかりぢやない、其外に澤山荷馬車の要る事は澤山あります。それ等を合せましたら非常な數であります。

道路の改良計畫は大規模なるを要す　日本も五大強國の一に加はつた。モウ總て昔流の考ぢやいけない、マア我々も隨分陸軍だの海軍だの、軍備に就ては隨分反対を受けて來たものです。極端なる反對論となると國が潰れてしまうと心配する人もありましたが、チットモ潰れませぬ。寧ろ軍備の爲に國が發展して來た。例へば各鎮守府に於ける設備の如き、殊に船渠の如き、アンな大きなものを造つたとか言つて日露戰爭前にも其の非難があつた所が、今日は小さくつていけない。彼の時分には此處にも在てになる石黒さん、などは餘程御奮發なさつて、軍港の設備を御設計

になつたのでありませうけれども、今日は小さい御感じが致すでありますやう。今日の日本の地位に對しては實にあの時分の人の規模が小さかつた事は、私共は情けない程に思ふ。殊に大正三年だと思ひますが、東京驛の完成しました時に私はよばれて行きましたと、其の時分の人々が非常に非難して居る。斯んな大きな停車場を造つてどうするか、殊に此ホテルなどは迫も利用は出來ぬと。……そう申した人が政治上相當地位のある人であります。所がどうですか、今では停車場ホテルへ泊らうと思へば餘程前に約束して置きにならぬと泊れませぬ。さう云ふもので。彼の東京停車場も今日では決して大きい事はない。世界に於ける日本の地位から較べて見ましたら、彼の位の停車場は何でもない。それから海上ビルデングの如きも、初めは途方もない馬鹿のものを作ると云ふ様な感じを持つた人もありますが、彼は非常に便利でありますと、あく云ふ様な家が續々出來て来る。元來云ふと、日本人は總て小さな家に住んで居る氣分で總ての事を計劃する、モウそ

れは止めなくてはならない。少く共海上ビルディングに住んで居る位の考を以てして、
もらいたい。願くば亞米利加の様に五十階や六十階の家に住んで居る様な氣を以て、
是から國政なり何なりを切り盛りして行かないと……之はドン／＼日本の地位の方
が先きへ進んで行きます。道路の事でも小さい頭で。昔各藩が別々になつて居つて隣
の藩へ行くのでも峠を越さなければ行けないと云ふ様な時分の考でありますから、
道路を作るに、五千萬圓も掛ると云つてビックリしてしまうのでありますから、
から九で話にならぬ。五千萬圓の聲だけで沙汰止となるのでありますやう。是から
の大日本を經營するにはモウ少しお考にならぬといかぬと思ふ。さう云ふ事は産業
に直ぐ響いて来る。今の通りに三百萬圓が半分に減るばかりぢやない。今日鐵道の爲
め此處らの一般産業も開發されまし、のみならずお互の日常に於ても非常に利益、
して居ます。私は此の年でありますから、相應に色々な時代を経過して居ますので。
昔の京都も知つて居ます。近頃は京都でも新らしい魚を毎日皆さん上りますが、

昔は鹽物ばかりでした。——尤も私は其時分には立派な宿屋には泊りませんでした
が、京都と云ふ所は鹽物を大變旨く食^ヒせる所だと思つたのであります。今日
ではさうでなく、立派な新らしい魚が澤山あります。之は何かと云へば鐵道の賜であ
る。モウ一步進めたら私は到る處に良い道路が出來まして、それで自動車が通ふ様に
なりましたならば、モット新らしい魚が集つて來るであらうと思ひます。自動車の
行程の方から言ひますと十八倍でありますけれども、魚とか牛乳とか云ふもので、
長く停滯して置いたならば腐敗すると云ふ物は、運搬速力が非常に關係を持つ。それ
から金利と云ふ問題も關係します。此の速度と云ふものを考慮致しますとどうして
も自動車でなければならぬ。

道路と鐵道と併用時代 大體に於きまして是れまでは鐵道と云ふ時代であつたが今
は自動車を鐵道と併用する時代になつて來た。それは日本ばかりであります。對
岸の支那でもさう云ふ傾向を呈して居る。例へば北京と天津の如きは去年私支那へ

行つて見ますと、亞米利加人の手で自動車道を造つて居る。庫倫張家口間にも自動車道が出来ました。元は四十日もかゝつて駱駝の脊でやつと行つた旅行が今日では四日で自動車で行ける。さう云ふ傾向で段々自動車道と云ふものが出来た。そこで自動車と鐵道の差を考へて見ますと、鐵道と云ふものは傾斜が四十分の一と云ふ限界がある爲め非常に金がかゝる、或はトンネルを掘らなければならぬ。所が自動車は六分の一の勾配なら何處でも行く、だから自動車道を造る事は金がかゝらぬ。それからモウ一つ好い事は鐵道でありますと停車場を造らなければならぬ、或は待避線を作らなければならぬが、自動車ならば何でもない。それてありがすから一體に自動車の方が建築費が非常に安い。鐵道を敷くと云ふ事は非常に憶劫ても自動車なら譯はない。斯う云ふ所は確かにある、だから日本でも斯うなるであらうと思ふ。今の様な狹軌鐵道では貨物はさばけぬと云ふ事になると、其代りに自動車道を作る。鐵道と自動車を併行して使ふ時代が来るだらうと思ふ。のみならず山間奥地の方で

は軽便鐵道とか言つて居つたが自動車で行く方が建築費が少い、それありますから、軽便鐵道と云ふものは自動車になつて来るだらうと思ふ。自動車の方が得であるから。さう云ふ様になつて來ると、道路を作りさへすればどこの山の奥でもドン／＼大きな工場なども出来るかも知れぬ。安い賃銀の労働者を集めて工業をする、道さへよければ何でもない。道が出來た、自動車を通すと云ふ事が益々發達して行くと、今日まで工業地でない所の部分に非常に立派な工業地が出來て来るだらうと思ふ。殊に京都の様に山の多い所でありますが是から道路が出來て自動車の交通が發達しても來たら非常な面目を變へて來るだらうと思ひます。今迄は工業地などにはならぬと思つた所が工業地になつて大變化を來すと云ふやうな事にもなるかも知れぬ。兎に角道路を作ると云ふ事は非常に必要な事で、永遠の策として非常に必要な事であると思ひます。

京都遊覽と道路　それから先程色々話がありましたので、蛇足を加へる必要は

ないやうであります。兎に角京都邊りはもう少し道路をよくなさつて、世界の公園となさる必要があります。大體に置きまして日本や伊太利と云ふやうな國は世界に於ける遊樂地である。日本へ遊びに来る者は必ず京都へ来て遊ばうと云ふのでありますから、來た外國人をなるべく短時間に充分に總ての土地を見せてやる、斯う云ふことか私は非常に必要だらうと思ふ。伊太利などへ行つて見るとさう云ふ設備が出來て居る。例へば香港などにもあります、伊太利では遊覽地の山の上はケーブルカーで上れるやうになつて居る。あゝ云ふことが此方には少しもありませんから、閑のある人なら叡山の上へテク〳〵徒步で登ると云ふことも宜いでせうが、僅か一日で見て來やうと云ふには、どうしても自動車、或は自動車で行けぬ時はケーブルカーと云ふやうなもので引上げると云ふ事をしてやらぬと、來た人が本當の京都を知らずに歸るより外はない事となります。是から御覽になります所の寫真が、此の通り道路を造ると高川植物でも何でも見る事がの出る。サミユル、ヒル氏が彩色を

入れた非常に奇麗な寫眞であります。道路を良くすると趣味の上からも斯う云ふ利益があると云ふ所の寫眞を幻燈に現はすやうになつて居るが、どうか我々は先づ道路を改良し、日本の國と云ふものは大陸に對する所の一つの心臓の様なもの、向ふから原料を取つて來る、此方で消化する、さうしてそれを世界の市場へ吐き出す、斯う云ふ作用を健全にするには先づ道路を造らなければならぬ。國防の上には勿論、乍併國防と云ふのもモウ少し積極的に我々は日本の國に鐵艦や飛行機を引受けると云ふやうな小さな考ぢやいかぬと思ふ。どうしてもモット出て、敵を寄せ附けぬと云ふのでなければならぬ。所か國防の上には道路の良いのが何と云ひましても關係致します。それは例へば動員がありましても、鐵道、道路、さういふものが總て發達して居らぬと時間を多く要します。それから若しも不幸にして海岸へ敵を引受けるやうになりましたら、道路の良い方が宜い、又飛行機を受けるのも無論道路の良い方が宜い、けれども我々はモウ少し積極的に進んだ國防、そんな門口に敵を引受け

で戰をあらわすふのではなしにモウ少し積極的の國防をしたいと思ひますが、それには先づ商業を發達させると云ふので道路を御改良になる、それが併せて國防の上にも非常な利益となるのであります、モウ幻燈の方が準備が出來た様でありますから是て私は……。(完)

(本編は京都市に於て開きたる道路改良講演會に於ける佐藤理事講演の大要である。同氏の許諾を得て茲に登載せり文責は固より編者に在り)